分野⑨　まちづくり・防災・インフラ

【資料１】

Impact

ありたい姿

（9年）

安定した都市インフラの上で、まちで活動したくなる仕掛けが充実するとともに、災害等から生活を守り、いち早く日常を取り戻す備えができているまち

【参考】主観指標：
・暮らしている地域の街並みが自分の好みに合っていると思う市民の割合
・いざという時に助け合える雰囲気が地域にあると思う市民の割合

Outcome

どう変わる

長期（9年）

- 魅力的な活動を誘発する仕掛けが充実している
- 都市インフラが適切に維持・管理されている
- 災害への備えが共有され、災害時に適切に行動できる状態になっている

中期（3～6年）

- 学生、高齢者、観光客等の安全で多様な移動手段が用意されている。
- 空き家や空き地・空き店舗等が魅力的に活用されていく
- 公園や道路・橋梁などが整い、日常的生活・活動の利便が保たれる
- 上下水道の機能が維持されるとともに、効率的な事業の経営見通しがある
- インフラや建物・施設が災害時も機能し、防災情報が共有される
- 災害リスクが市民・地域に理解され、避難行動や消防団など事前の防災活動が増えている

初期（すぐ～1・2年）

①公共交通の利便性や、交通の安全性が高い
・移動したい人と移動する方法のマッチングが整う
・交通弱者が様々な手段を選択できる

②空き家や住居の情報が出したい人、欲しい人で円滑に共有される
・空き家に関する情報がワンストップで得られる

②市街地や農山村など立地に合わせた土地や施設・建物活用の相談先がある

③道路・橋梁・公園等が計画的に整備や維持・更新される

④上下水道施設が計画的に整備や維持・更新される

⑤災害に備えるインフラ・建物などが計画的に整備や維持・更新されている

⑥防災・ハザードマップの作成や、これを生かした訓練などが増える
・災害時に近隣の支え合いで逃げ遅れない地域になる

Activity/Output

何をする

行政

・バスなどの移動時に本数が多い、乗り場が近いサービスを提供
・目的の場に直接行けるサービス

・空き家の届け出制度など最新の情報を正確にとれるような情報のルール化
・地区ごとにエリアマネジメントを実施し、各地区のブランドデザインする
・空き家活用マネジメント計画、空き家バンク、コーディネーターの配置など

・遊休資産活用の相談窓口が必要
・市街化調整区域の規制緩和に取り組んでほしい

・5m道路など生活道路の整備
・シニアカーで通れる歩道の整備

・更新、維持すべきものの判断を
（この判断基準によって空き家を捨てるか活かすかの見極めにもつながる）

・更新、維持すべきものの判断を
（この判断基準によって空き家を捨てるか活かすかの見極めにもつながる）

・要配慮者の把握ができている
・防災組織化が整っている

協働・共創

・公共交通の時刻、乗り継ぎ情報がわかりやすい方法で提供される
・同時刻に同じ方向に向かう人が乗り合える仕組みができる
・タクシーなど深夜帯の移動方法がふえる
・移動のしやすい場所に住居を選択する

・空き家片づけ隊の組織をつくる
・空き家活用のプレイヤーが多いという塩尻の特色を生かす
・コーディネータに定年以降の人材を活用
・土地情報を持っている土業との連携をおこなう

・防災食を貧困支援に利用

・地域のきずなが深まることでご近所さんの状況が把握ができる
・地元の消防団が活発になる

ワークショップの内容・ロジックモデルの変更点の概要

・アクティビティについては、横断的観点からの意見が多く出された。
・交通利便向上についてニーズのマッチングなど、空き家活用について空き家情報のマネジメントなど、グランドデザインと情報共有について多く議論された。
・空き家の活用は、その前提となる上下水道やインフラ整備や防災の観点と合わせて考える議論がなされた。